

医療ニュース

福井大、独自の臨床実習支援システムを開発、製品化

大学 2019年9月11日 (水)配信 高橋直純 (m3.com編集部)

福井大学医学部は9月9日、医学部生の参加型臨床実習を管理するための教育システム「F.CESS（エフ・セス）」を開発、全国の医学部などに販売すると発表した。電子カルテと連動して、医学生のカルテ記載指導や成績管理ができるシステム。2014年から独自に開発を開始し、2018年から同大で本格運用を開始した。2020年から他大学の利用を目指しており、利用料は1大学500万～700万円を見込んでいる。

東京都内で福井大医学部長の内木宏延氏、同大医学部附属教育支援センター長の安倍博氏、同客員准教授で、同大発ベンチャーの株式会社日本医学教育技術研究所代表の田中雅人氏が記者会見した。

医学教育の国際認証対応のため、近年、医学生の臨床実習期間が従来の1.5倍になり、内容面でも見学型から診療参加型へ改革が求められている。文部科学省が定めるモデル・コア・カリキュラムに沿った評価も必要となり、教職員、学生ともに負担が増えていた。

福井大は2014年から臨床教育システム（CESS：Clinical Education Supporting System）を開発。大学病院で使っている電子カルテと連動しながら、実習計画の立案やカルテ記載とそのフィードバック、学習の振り返りなどができる。チャットツールで、質問・指導する機能もついている。

経験すべき疾患の達成度等も可視化され、個々の学生の評価ポートフォリオを作成・分析することもできる。学外病院からも情報共有できるようになっている。これまでは紙による運用も多かったことから、システム導入で教員の負担も軽減されたという。

大学教員が中心となり、地元のシステム会社とともに開発、2017年に試験運用、2018年の5年生の臨床実習から運用を開始した。開発費用は「学長裁量経費と医学部長裁経費で数千万円」だったという。他大学でも活用できる目処が立ったことから、福井大発のベンチャー企業である株式会社日本医学教育技術研究所による製品版「F.CESS」を発売した。福井大学病院は日本IBMの電子カルテを使っているが、他社製品とも連携可能。田中氏によると利用料金は「学生1人当たり月2000～3000円。年額で1大学当たり500万～700万円から検討している」と説明した。2020年度開始の臨床実習に向けて、いくつかの大学とは検討が進んでいるという。

今後は研修医版やコメディカル版の開発や、シミュレーター機器との連携なども見込んでいる。内木氏は「縦割りのない文化と小規模大学ならではのチーム力で実現した。日本の医学教育を変える製品になった」と説明した。



福井大の田中氏、内木氏、安倍氏（左から）